【解答例】

一

問一　人間以外の生物は、物質としての個体に訪れる死を受け入れるだけで、自己存在の終焉として観念的に死を恐怖したり、否定や克服の対象としたりすることはないということ。（79字）

問二　死を超えた価値への信仰が様々な問題を招いただけでなく、どれほど死を遠ざけようとしても死の恐怖は克服できないために、人間はいっそう死に苦しめられているということ。（80字）

問三　かけがえのない個としての自己が突然の死によって絶対的に否定されることを、人間が自覚し受容できるのは、人間が死を恐れ死を克服しようとする心を持つためだという逆説。（80字）

問四　人間が生きるということは、死を超えた価値を信仰して死を恐れたり死を克服したりしようとすることではなく、かけがえのない個としての自己が突然の死によって絶対的に否定されるという、生物としての現実を徹底的に自覚することをとおして、逆に自己のかけがえのなさを自覚することであり、それは自己の死を受容することにつながるということ。（160字）

問五　(a)＝災禍　(b)＝初発　(c)＝要請　(d)＝典型　(e)＝奥義（奥儀）

二

問一　①＝私は源氏物語を早く読みたいと思っていたことなので、②＝誰が私のために物語を探して、読ませてくれる人がいるだろうか、いやいないだろう。
③＝父との夫婦仲がうまくいかなかったようで、
④＝源氏物語を読みたいとも思われなくなった。

問二　梅の花が咲く頃にまた来ると言い残した継母から音沙汰がなく、寂しくも会いたい気持ちを募らせている心情。（50字）

問三　身近な者たちとの別れが重なったうえに、大納言の姫君からもらった書の手本が、姫君の死を暗示させるような内容だったこと。（58字）

問四　a＝たれ　b＝たる　c＝たり

問五　イ

三

問一　①＝まさに……べく
②＝かつて
③＝いず（づ）くんぞ
④＝あせをながさざる（もの）はなく

問二　崔弘度

問三　従者たちが、すっぽん料理をろくに味わいもしないうちに、「美味しいです」という誠実さを欠いた答え方をしたから。

問四　崔弘度に会うくらいならば、酢を三升飲む方がよい。

問五　厳格・酷薄な官僚として恐れられ嫌われていたが、一族の年長者にも同様に厳しく接して彼らを善導したことにより、その公平さを畏敬されてもいた。（68字）

代々木ゼミナール